

自立活動の部屋

～かがやき☆自立活動通信～

令和元年10月31日



埼玉県立草加かがやき特別支援学校 自立活動専任



やっと夏の暑さも和らぎ、秋を感じる季節となりました。子どもたちは秋休みを経て、後期の大きな行事の一つであるきらきらまつりでの学習発表や作業班での製品頒布に向けた準備に取り組んでいるところです。季節の変わり目は体調を崩しやすい時期でもあります。子どもたちがよりよい状態で学習・生活できるように体調管理に気をつけていきましょう。

第6回は、きらきらまつりにちなんで、文化芸術活動と買い物について取り上げます。

障害のある人の文化芸術活動をとらえ直す～新たな文化芸術活動のあり方を考える～

平成29年：「障害者芸術文化活動普及支援事業」がはじまる(厚生労働省)
平成30年：「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が出される
令和 元年：「障害者による文化芸術活動推進事業」がはじまる(文化庁)

→障害のある人の文化芸術活動は「心の豊かさ」「個性と能力の発揮」「他者との相互理解」「自立と社会参加」をもたらす促進するもので、国や地方公共団体が支援していくものであることなどが謳われています。

文化芸術活動は余暇活動にもつながります！



しゅう

埼玉県では『アートセンター集(埼玉県障害者芸術文化活動支援センター)』が障害のある人の文化芸術活動の拠点になっています。現在、特別支援学校や障害者福祉施設を中心に美術、工芸、音楽、演劇、ダンスなど多様な表現活動が行われています。海外で高い評価を受ける、作品を題材としたグッズが作られ、販売されることもあります。障害のある人が作品制作の指導をする事例も出てきました。

参考・引用文献 文化庁×九州大学共同研究チーム(2019)

文化芸術活動から生み出されるもの

「はじめての“社会包摂×文化芸術”ハンドブック」.

創造を通して：作品づくりを通して、普段の自分とは異なる自分を見つける、相互理解やエンパワメント(自信を獲得し、能力を発揮できるようになる)

発表を通して：日常と異なる体験を通して、元気づけられる、次の創造活動に取り組むモチベーションが向上する、普段出会わない多様な人たちとのつながりが新たにつくれる

鑑賞を通して：鑑賞の体験をとらえ直すことで、一つの作品を多様な視点でとらえられ、これまで参加できなかった人たちも参加できる



先進的な取り組みの紹介

①創造・発表：ソーシャルサーカス 参考・引用WEB NHK おはよう日本 <https://www4.nhk.or.jp/ohayou/>

『シルク・ドゥ・ソレイユ』の手法を用いたサーカスの技への挑戦を通してコミュニケーション能力を高め、社会参加につなげるというねらい。活動を通して少しずつ仲間に興味をもち、技の説明を任される、仲間に自分の身体をゆだねられるようになった事例も。

※埼玉県でも演劇やダンスを行ういくつかの団体がある(A・un やベストプレイスなど)。

※毎年「埼玉県障害者アート企画展」も開催されている。

→今年度は12/4(水)～8(日)に埼玉県立近代美術館で開催予定。

②鑑賞：耳で聴かない音楽会

参考・引用 WEB 日本テレビ NEWS24 <http://www.news24.jp/>

小型の振動スピーカーが、参加者の抱えるボールの内部にあり、音の速さやリズムを光と振動で感じられ、身体に伝わるようになっている。
※親子観劇室の設置(劇団四季)、事前の舞台説明・上映台本の貸し出し・



車いすスペースの設置 (東京芸術劇場や世田谷パブリックシアターなど)も行っている。

きらきらまつりの作品展示や学習発表など、子どもたちの文化芸術活動をぜひご覧下さい!

買い物にチャレンジしよう

生活単元学習や各教科などの授業を通して、買い物に関する指導を行っています。大切なのは、学校で指導したことがご家庭でも活かされ、子どもたちの生活の豊かさにつながっていくことだと考えています。そのためには、子どもたちの力が発揮される場面を子どもたちに合うように、生活の中に意図的に設定していくことが必要となります。ひき続き、ご家庭と協力・連携を図りながら子どもたちの指導に取り組んでいきます。

実践例①：生活単元学習「自動販売機で飲み物を買おう!!」(小学部低学年)

手軽に行える買い物の一つに、自動販売機で飲み物を買う活動があります。お金を投入口に入れる時には、お金を「つまむ」「押し入れる」「離す」など、手先の細かな動作が必要です。自立活動の時間に練習したこともあり、スムーズに購入できました。



実践例②：生活単元学習「おつかいをしよう」(小学部低学年)

調理で使うホットケーキやゼリーの材料、パーティで使うお菓子などを何度か購入したことがある学校近くの100円ショップにおつかいに行きました。ご家庭からあらかじめ聞き取ったほしい調味料を、購入する調味料の写真カードを見ながら店内を探しました。場所やお金のやりとりに慣れた後の取り組みだったため、スムーズにおつかいを行うことができました。購入した調味料を家に持ち帰ることで、ご家庭で「褒められた」という達成感を味わい、次の買い物への期待感や自己肯定感を高めることにもつながったのではないかと考えます。



実践例③：数学「お金の出し方を考えよう」(中学部)

プリントでお金の計算をした後、お金を「金額どおり出す」学習から「おつりが少なくなるように出す」学習に発展させました。「小銭の枚数が少ない方が勝ち」というルールのもと学習を行っていくと、「126円」の商品を「131円」で支払う様子も見られるようになりました。



実践例④：数学・自立活動・進路「お金の管理をしよう」(高等部)

レシートを使った授業では、「いつ」「どこで」「何を」「いくら」買ったのか、「支払い額」と「おつり」はいくらなのかを読み取る学習を行いました。すごろくを使った授業では、「お手伝いをして100円もらった」「ジュースを買って130円払った」などのマスがあり、『おこづかい帳』としてお金の収支をプリントに記入していきました。進路の授業では、将来必要なお金として生活費について家計簿をつけながら整理・検討しました。どの学習も、お金の管理につながります。



おこづかい 1,000円			
No.	入った金	出た金	残ったお金
1	1,000円		1,000円
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
			残ったお金

使いやすい財布とは



使いやすい財布の活用は、支払いのしやすさにもつながります。「開けやすい」「開けた時に中身のお金が見える」「ひもつき」ものが使いやすいです。きらきらまつりでも買い物で財布を使う機会があるので、子どもに合ったものをご家庭で検討いただくと幸いです。